

私たちの手で支えあいの地域をつくる

▷問い合わせ 芦屋町社会福祉協議会
(☎222-2866)

～芦屋町のボランティア団体紹介シリーズ4 ^{はっさく}「八朔の会」～

町内では、「芦屋町手をつなぐリボンの会」というボランティア団体が活動しています。その中に6団体が所属しており、さまざまな分野の活動をしています。今回は「八朔の会」を紹介します。

八朔の会（結成して39年）

- ◆活動場所 中央公民館4階
- ◆活動日時 毎週㊗・午前11時30分から3時間程度
- ◆活動人数 29人（3班に分かれて活動）
- ◆活動に込めた想い

在宅の高齢者に栄養バランスの良い弁当を作って届ける活動をしています。利用者のほとんどが後期高齢者ですが、住み慣れた自宅で暮らし続けたいと頑張っている人ばかりです。その人たちが低栄養にならないよう、そして食べたいと思える、楽しい弁当づくりに励んでいます。



【活動レポート】

取材した日は、敬老の日の特別な弁当作りでした。サーロインステーキが目玉で、いつもより少し手の込んだおかずにしていました。

調理ボランティアの皆さんは、それぞれの季節をイメージした弁当も作っており、心地よい疲れをみんなで共有しています。また、配達ボランティアの皆さんは、利用者の自宅を訪問する際には今日も元気であることを願い、「会えてうれしかった」と言ってもらえるよう心がけています。



八朔の会の活動に興味がある人、見学・入会をしてみたい人は、芦屋町社会福祉協議会に連絡してください。



▷問い合わせ 社会教育係
(☎ 2 2 3 - 3 5 4 6)

「力ではなく言葉で」 現代のしつけ

「しつけ」と聞くと、こどもに対して厳しくルールを守らせなければならぬと感じる人も多いと思います。しかし、しつけはこどもが社会の中で生きていくために必要なものです。

ここでは、しつけのポイントを2つ紹介します。

① 伝わりやすい言葉で

しつけをするときには、言葉で伝えることが大切です。手をあげてしまったり、何が悪いのかわからないまま、ただ恐怖感だけが残ります。手をあげそうになったときは、一度深呼吸をして、冷静に短い言葉で、わかりやすく伝えましょう。こどもが理由を納得できるように説明し、「しなさい」という命令口調ではなく、「しなさいね」と提案すると自主性を感じながら学ぶことができます。また、「しなさいね」と否定的

に伝えるよりも、「しなさいね」と言い換えることも大切です。こどもは自分がしていることを否定されると嫌な気分になり、素直に大人の言うことを聞かなくなってしまうかもしれません。例えば、「走り回らないでね」というよりも、「周りの人におつかつたらあぶないから、歩こうね」のように、なぜそうするほうが良いのかを一緒に伝えることで、納得して行動に移しやすくなります。

② できたことを見つけてほめる

しつけでは、つい悪いところに目が行きがちになり、やらなかったことを叱ってしまいます。叱ってしまうと、こどもは「バレなければいい」と考えるようになり、この考え方は大人になってもなかなか直りません。一方で、できたことを褒められるとこどもはうれしくなり、自主的に動きやすくなります。褒めるときは、こどもの行動の結果どんないい影響が出たかも一緒に伝え、よいこどものやる気につながりやすいでしょう。

しつけを行うには、なによりも保護者とこどもの信頼関係が成り立っていることが必要です。こどもが、「いつも見守ってくれている」と感じられるように、ゆったり構え、焦らずに根気強く繰り返し伝えていきましょう。



りーど通信 No. 59

シャボン玉石けん工場へ 見学に行きました！

8月19日にりーどばらにてあキッズ第3回研修会で、シャボン玉石けん工場へ行きました。最初に、石けんの原料や製法、特徴などをビデオで学び、講師から、洗剤には「無添加石けん」と「合成洗剤」の2種類があることなどを実験やクイズでわかりやすく教えてもらいました。



次に、石けんが作られ梱包されるまでの工程を工場で見学しました。この工場では、天然油脂と苛性ソーダ・苛性カリを大きな釜で1週間以上かけて熟成させる釜炊き法で石けんを作っており、人の手で色合いや粘度、味などで熟成の判断をしています。これは10年以上経験しないとできない難しい仕事であること知り、キッズたちは驚いていま

した。

石けんの製造工程・環境に与える影響などを学び、石けんの使い方を意識するきっかけになりました。

今後も好奇心や自発性、ボランティア活動への興味・関心を引き出す場となるように、ボランティア活動センターでは、見学や体験も盛り込んだ活動を企画していきます。



▽問い合わせ ボランティア活動センター (☎ 2 2 1 - 1 0 1 1)